

# 伊勢崎駅周辺における連続立体交差化による都市機能向上

課題と成果

整備の事例

## 群馬県の現状と課題

群馬県の中央部に位置する伊勢崎市の中心市街地は、JR両毛線、東武伊勢崎線により伊勢崎駅を中心に「Y字状」に分断されていたため、踏切遮断による交通渋滞の発生や一体的な市街地形成が阻害されるなど、健全な都市機能の発展に長年の課題がありました。

## 目的

伊勢崎駅付近連続立体交差事業は、群馬県が都市計画事業者となって伊勢崎駅付近の鉄道を高架化することにより、踏切による交通渋滞や踏切事故の危険性を解消するとともに、市街地の一体的な土地利用を可能にすることで、伊勢崎市が施行している駅周辺土地区画整理事業と一体となって市街地の再整備を図ることを目的としています。

## 事業の指標

指標1 連続立体交差化により除却される踏切数

目標達成

現況：20箇所⇒目標：0箇所

指標2 踏切による渋滞長

目標達成

現況：2, 220m(H25)⇒目標：0m(H26末)

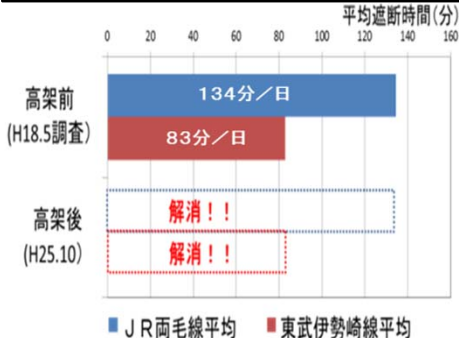
## 成果と達成度報告



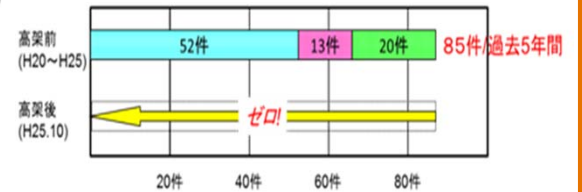
ゼロ！！



### 20箇所の踏切における平均遮断時間の変化



### 東武伊勢崎線13箇所の踏切における潜在的な事故件数



※潜在的な事故：事故に至らなかったが、踏切内への人や車両の進入や遮断棒の折損など

# 伊勢崎駅周辺における連続立体交差化による都市機能向上

## 完成写真



## その他の効果

○バリアフリー化による移動円滑化  
新駅舎の建設により、駅構内がバリアフリー化され、また、自由通路の設置により移動の円滑化が図られ、すべての人にとって使いやすい施設に変わりました。伊勢崎駅の乗降客数は、事業前に比べ約14%増加しました。  
(高架化前:平成21年度15,190人/日→高架化後:平成26年度17,305人/日)



【エレベーターの設置】



【エスカレーターの設置】

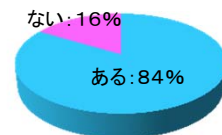


【自由通路の整備】

○市街地の一体化  
交差道路41箇所、側道12路線、伊勢崎駅・新伊勢崎駅の自由通路の設置により、分断されていた市街地が一体化され、周辺地域の消防活動及び救急搬送の迅速性や住民の移動の利便性が向上しました。大型商業施設、医療関係施設の進出及びまちなか活性化のためインフォメーションセンターが設立されるなど、駅利用者の利便性を高め、地域交流の活性化と交流人口の増加が期待出来ます。

※伊勢崎消防署、伊勢崎消防署北分署へのアンケート調査結果 【回答者数 61人】

高架化前に踏切遮断により緊急出動時の通行を妨げられたことがある



高架化により踏切が除却されたことで、緊急時の移動がスムーズになったと思う

